

2014年5月18日

緊急レポート!!

ベトナムにおける反中国デモの動きについて

インターリスクアジアタイランド

はじめに

2014年5月ベトナム国内において、中国によるパラセル諸島の石油掘削に関する抗議デモがエスカレートしています。13日には、ビンズオン省に所在するベトナム・シンガポール第一工業団地において大規模な暴動が発生し、多数の工場が操業停止に追い込まれ、また、14日にはハティン省で建設中の製鉄所（中国人労働者5000人と最大で900人の台湾労働者が勤務）がデモ隊に襲撃されました。ベトナム政府は沈静化を計っていますが、当面注意が必要な状況です。

事実関係

発生日	都市	場所	内容	備考
5/11	ハノイ	中国大使館前	大規模デモ発生	その他ホーチミン等の都市でもデモ発生
5/13	ビンズオン省	ベトナム・シンガポール工業団地(VSIP)	<ul style="list-style-type: none"> 数百人規模のデモ発生 企業の国籍を確認し中国系の事務所や工場の窓を投石や棒でたたき割ったり、門を倒したりした 	<ul style="list-style-type: none"> VSIPには多くの日系企業が入居 日系企業のベトナム人従業員にもデモ参加を強要
5/13	ビンズオン省	工業団地	<ul style="list-style-type: none"> 台湾系企業の工場が反中国を訴えるベトナム人の群衆に襲撃され、生産ラインが全面停止 オフィス内に侵入し、パソコンを持ち出したり、書類を燃やしたりした けが人も出ている 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の看板を掲げる台湾系企業を中国系とみなした模様 多数の企業が襲撃に遭い、生産ラインは全面的に停止 襲撃された操業再開のめどは立っていない
5/13 夜～14日未明	ビンズオン省		中国系の工場など少なくとも15カ所に放火	
5/14	ホーチミン市、ビンズオン省、ドンナイ省		中国系工場に対する略奪や放火を行った暴徒約600人を拘束	ホーチミン日本人学校は、児童・生徒の安全のため、14日午後と15日を休校
～5/14	ビンズオン省、中部ハティン省		<ul style="list-style-type: none"> 2人の中国人が死亡、100人以上が負傷。 台湾の複合企業「台湾プラスチック・グループ」において、ハティン省で建設中の製鉄所(中国人労働者5000人と最大で900人の台湾労働者が勤務)にデモ隊が襲撃 	<ul style="list-style-type: none"> 台湾系や香港系の工場にも被害発生 ホーチミンとプノンペンを結ぶ道路の国境にある出入国管理局を通り、ベトナムに住む600人以上の中国人がカンボジアに避難
5/16	タインホア省	工業団地	数千人規模のデモ実施	
5/17			<ul style="list-style-type: none"> ベトナム政府が暴動沈静化をコメント 中国外務省がベトナムに抗議およびベトナム渡航禁止を推奨 ベトナム政府がデモの鎮静化を図る 	
5/18			<ul style="list-style-type: none"> 中国政府がベトナム国内の中国人帰国の為の艦船を派遣 	

他国の非難を目的とするデモの特徴

他国の非難を目的とするデモは過去にも多く発生しています。これらは自国内に所在する相手国の政府機関や民間企業を対象とするもので、その主な理由は愛国心によるものです。今回は 17 日にベトナム政府が暴力沈静化を実行し、中国関係施設に対する大規模デモは防止されている状況ですが、今後当面は予断を許さない状況です。

同日、中国外務省はベトナムに抗議を行うと共にベトナムへの渡航自粛を呼びかけています。また、本日 18 日、ベトナム国内在住の中国人の帰国の為に艦船を派遣したとの報道がありました。これらの行動は両国の関係がこれから悪化する方向に向かう可能性が高いことを示しています。

デモに参加する人々の行動心理にも特徴があります。愛国心による行動ですので、まずは相手国の政府機関を相手にデモが行われます。この段階においては、自分で考えて行動する知識層の人々の割合が多いため、暴徒化する可能性は低いといえます。過去の事例を見ても、最初の政府機関を相手にしたデモが暴徒化した事例は少ない傾向にあります。しかし、これが民間企業が相手になると全く異なる様相を見せます。特に労使関係が悪い多数の従業員が所在する企業の場合などは、国と国との関係を会社と自分の関係に置き換え、より過激になる傾向があります。一部の人々が過激な行動を行うと集団心理で多数の人々がこれに参加して暴徒化してしまうこともあります。

企業としての対応策

工場

- 1. 自社が入居する工業団地もしくは周辺地域の中国・台湾・香港企業（工場）の位置の確認。**
暴徒化を確認してから操業停止、日本人の避難等緊急対応準備の必要時間については、歩く速度を時速約 4km として当該工場との距離から計算します。
- 2. 上記中国・台湾・香港企業に関する迅速な情報収集が可能な体制をつくること。**
出来れば、当該中国関連企業とベトナム人スタッフ同士での情報交換を試みることをお勧めします。（日系企業が隣接する中国企業の中国人を暴徒から救出したという報道もあります。事前に連絡体制をつくることについてご検討ください。）
- 3. デモが発生した場合に迅速に把握できるよう、情報収集専門のベトナム人スタッフを選任してベトナム国内報道内容が迅速に報告される体制を作ること。**
日本語の報道は如何しても半日～1 日程度遅れます。ベトナム報道機関の報道を最優先に収集する体制が必要です。
- 4. 万一の場合に備え、日本人駐在員の避難経路（出来れば複数の経路）を事前に確認しておくこと。**
- 5. デモの位置と工場の位置関係、避難経路等は全て地図に記載し、全体を俯瞰する地図とデモの場所についての詳細を示す地図の 2 種類を作成すること。**
- 6. 工場のアクセス道路に面した目立つ場所に日本の国旗を掲げること。**
ベトナム国旗と日本国旗の双方を掲げる、複数の日本国旗を掲げる等、暴徒が敷地に向かって歩いてきた場合に直ぐに日本企業であることがわかるようにすることが重要です。
- 7. 社有車・トラック等の車両にも日本の国旗のシールを貼る、もしくは、車内に日本国旗等を常備すること。**

個人（ご家族を含む）

1. デモが行われているとされる場所には近づかないこと。

日本人は中国人と間違われる可能性があります。上記の集団心理から、誰か一人が中国人だと叫べば、中国人として扱われる可能性があることを認識して下さい。特にご家族の場合は、デモの場所に関する情報が遅れる可能性があります。日本人駐在員はデモ情報を迅速に把握して、ご自身の生活圏におけるデモの情報を知った場合は必ずご家族と連絡を取るよう徹底してください。

2. 中華料理店、中国人が多数居住している場所、夜間集まっている場所には近づかないこと。

3. 移動は出来る限り車（社有車、タクシー）を利用し、徒歩の移動は控えること。

4. 自宅に一週間分程度の水と食料を備蓄すること。

5. 駐在員間の緊急連絡網を見直して更新すること。

携帯電話番号、メールアドレスの他、個人用携帯（スマホ等）での LINE の登録等、複数の連絡方法を複数の携帯端末上にそれぞれに登録しておかれることをお勧めします。

6. 各駐在員とご家族の間については、会社支給携帯端末と個人所有端末でのメール、**SMS**、**LINE** 等、複数の連絡方法をご家族全員の端末に登録しておくこと。

現在の状況においては、上記の対策をご検討ください。

今後について

前述のとおり、ベトナム、中国間の関係は当面悪化していくことが予測されます。また、本日現在のベトナム、中国双方の動きから、インターネット等を通じて、反中国の意見がベトナム国内全域にて盛り上がってくるものと推察され、長期化する可能性があります。

日本人は外見から中国人と間違われる可能性があります。今後当面は慎重な行動が求められます。くれぐれもご注意下さいますようお願い申し上げます。

参考

JIJI News

CNTV

<http://vietnamnews.vn/politics-laws/254745/nation-protests-chinese-intrusion.html>

www.manager.co.th/Around/ViewNews.aspx?NewsID=9570000053616

www.manager.co.th/Around/ViewNews.aspx?NewsID=9570000053616

BBC News

Thai channel 7

ThaiPBS

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/140517/asi14051715520011-n1.htm>

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM15039_V10C14A5FF1000/

本レポートは、マスコミ報道など公開されている情報やインタビュー、現地調査等に基づいて作成しております。また、本誌は、読者の方々および読者の方々が所属する組織のリスクマネジメントの取組みに役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

以上